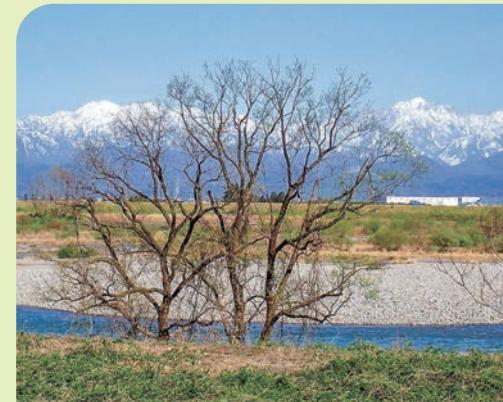


とやまの森と技術 No.7

富山のヤナギ活用ガイド

—分布特性・見分け方・発根性—



富山県森林研究所

令和8年1月

はじめに

ヤナギと言えば、公園樹や街路樹としてなじみ深いシダレヤナギやセイヨウハコヤナギ(通称ポプラ)を思い浮かべるかもしれません、これらはいずれも大陸原産の外来種です。ヤナギ類(ヤナギ科ヤナギ属・ヤマナラシ属)の在来種には、ネコヤナギやドロノキなどがあり、富山県には 20 種近くが自生しています。種によって分布特性は異なり、平野部の大河川に多いもの、山間部の河川沿いに多いもの、林道沿いに多いものがあります。富山県には多くの大河川があり、随所にヤナギ類の在来種が生育しているので、気付かないうちに目にしている方も多いと思います。

ヤナギ類は、氾濫跡地や崩壊地にいち早く侵入し、旺盛な初期成長を示す先駆樹種です。採取した枝を直接造林地に挿し付ける直挿し(じかざし)造林が容易な樹種が多いため、災害跡地で実施される治山事業の緑化植物として有用です。また、伐採後の萌芽による再生力が高いため、農地にて生産と収穫を数年サイクルで繰り返すことができる木質バイオマス資源としても近年注目されています。しかし、ヤナギ類には多くの樹種があり、同定が比較的難しいうえ、どの樹種が事業地の立地に適しているか、挿し木材料の採取適地はどこか、樹種によって発根性に違いはあるかといった情報が不足していました。そこで、本書では、富山県に自生するヤナギ類の分布特性、見分け方、発根性を示します。

緑化植物やバイオマス資源としてヤナギ類の利用を検討されている方や、ヤナギ類の分類に興味のある方に、本書をご活用いただければ幸いです。

表紙写真

左上 河川敷に生育するコゴメヤナギとジャヤナギ

2024.4.10 常願寺川雄峰大橋付近

右上 オオキツネヤナギの雄花序

2022.5.11 和田川峠谷(富山市有峰)

左下 オノエヤナギの裂開中の果実

2024.5.30 和田川西坂森谷(富山市有峰)

右下 挿し穂の発根性調査状況

2025.10.23 立山町吉峰

目 次

1. ヤナギ類の分布特性

1-1 富山県に自生するヤナギ類の在来種	1
1-2 ヤナギ類分布地点の立地	2
1-3 標高分布と湿潤指数分布	3
1-4 標高と湿潤指数の2要因で表した分布特性	4
1-5 河川による分布の違い	5

2. ヤナギ類の見分け方

2-1 葉	6
2-2 開花時期と花序の形状	7
2-3 果実の成熟時期	8
2-4 個体サイズと立地	8
2-5 雜種	9
2-6 在来ヤナギ類主要種	10

葉の一覧	11
①コゴメヤナギ	13
②カワヤナギ	15
③オノエヤナギ	17
④イヌコリヤナギ	19
⑤ネコヤナギ	21
⑥ジャヤナギ	23
⑦タチヤナギ	25
⑧マルバヤナギ	27
⑨バッコヤナギ	29
⑩オオキツネヤナギ	31
⑪オオバヤナギ	33
⑫ヤマナラシ	35
⑬ドロノキ	37

2-7 その他の在来ヤナギ類	39
----------------	----

⑭オオタチヤナギ	39
----------	----

⑮ミヤマヤナギ	40
---------	----

2-8 外来ヤナギ類	41
------------	----

シダレヤナギ	41
--------	----

ウンリュウヤナギ	41
----------	----

キヌヤナギ	42
-------	----

セイヨウハコヤナギ	42
-----------	----

2-9 ヤナギ類の観察適地	43
---------------	----

3. 挿し穂の発根性

3-1 挿し穂の発根性調査の重要性	44
-------------------	----

3-2 発根性の調べ方	44
-------------	----

3-3 樹種による発根性の違い	45
-----------------	----

3-4 発根性調査のまとめ	46
---------------	----

おわりに	49
------	----



山間部の河川に群生する開花中のコゴメヤナギ

2025.4.19 大長谷川(八尾町新屋)

1. ヤナギ類の分布特性

1-1 富山県に自生するヤナギ類の在来種

本書では、ヤナギ科ヤナギ属とヤマナラシ属に分類される種を「ヤナギ類」と呼びます。富山県に自生するヤナギ類の在来種は19種とされていますが(表1)、このうち、富山県の山地帯以下(標高0~1600m)で普通に見られる13種を本書では主要種として扱い、分布特性、見分け方、発根性を示します。その他の6種のうち、シロヤナギは亜種レベルの違いのコゴメヤナギに含めて扱います。稀少な2種、岩場に生育する1種、高標高に生育する2種は主要種から除きました。

表1 富山県に自生する在来ヤナギ類

和名	属 番 号	樹高 (m)	記録 地点数	解析分布 地点数	和名	属 番 号	樹高 (m)	備 考
【主要種】高木樹種								
ドロノキ	P ⑬	30	121	97	【その他種】亜種レベルの別種			
オオバヤナギ	S ⑪	30	89	75	シロヤナギ	S	25	*1
コゴメヤナギ	S ①	25	425	318	【その他種】稀少種			
マルバヤナギ	S ⑧	20	133	103	オオタチヤナギ	S ⑭	12	*2
ヤマナラシ	P ⑫	20	85	75	キツネヤナギ	S	2	*3
バッコヤナギ	S ⑨	15	252	201	【その他種】岩場生育種			
オノエヤナギ	S ③	15	338	251	コマイワヤナギ	S	1	
ジャヤナギ	S ⑥	12	209	154	【その他種】亜高山・高山生育種			
					ミヤマヤナギ	S ⑮	2	
					タカネイワヤナギ	S	0.2	
【主要種】小高木・低木樹種								
タチヤナギ	S ⑦	8	298	212				
カワヤナギ	S ②	8	328	270				
イヌコリヤナギ	S ④	6	194	178				
オオキツネヤナギ	S ⑩	5	170	147				
ネコヤナギ	S ⑤	3	136	121				
計 13種			2778	2202				

・富山県植物誌改訂版編集のための維管束植物チェックリスト(富山県植物誌改訂版編集委員会 2021)に収録された種のうち、雑種以外で「植栽」、「逸出」、「外来」の記載がない19種を掲載。ただし、「外来？」の記載があるジャヤナギは含めた。

・属のSはヤナギ属(*Salix*)、Pはヤマナラシ属(*Populus*)。

・丸数字番号は在来ヤナギ類解説ページ(p13~40)冒頭の種番号。

・樹高は最大樹高で観察および参考文献(巻末)に基づく。

・記録地点のうち、標高1600m以上を控除したうえで、500×500m四方内に1種あたり複数点ある場合は1点となるように間引き、解析分布地点とした。

*1 亜種レベルの違いのコゴメヤナギに含めて扱う。

*2 ジャヤナギと同種の可能性がある(大橋 2016)。

*3 オオキツネヤナギに似る。同定のポイントとなる子房の毛の有無や花序の太さを多数の個体について観察した結果、県内では稀少と判断。

主要種のうち8種は高木樹種(最大樹高10m以上)、5種は小高木・低木樹種(10m未満)です。また、ヤマナラシ属は2種(ドロノキ、ヤマナラシ)で、他11種はヤナギ属です。

1-2 ヤナギ類分布地点の立地

主要河川沿いや県内各地の林道沿いと森林でヤナギ類の生育地点を記録し、主要13種について、合計2202地点(表1)の分布情報(図1)を解析しました。

分布地点の立地区分構成から(図2)、大きく3つの樹種グループに分けられました。1つめは道路沿いが80%以上を占めるヤマナラシとオオキツネヤナギ、2つめは道路沿いと河川沿いの割合に大きな差がないバッコヤナギ、3つめは河川沿いが大部分を占める他の10種でした。森林内には、ヤマナラシとバッコヤナギがわずかに出現したのみで、開けた環境を好むヤナギ類の性質を反映していました。休耕田の割合が比較的高かったのは、タチヤナギ、カワヤナギ、マルバヤナギ、イヌコリヤナギでした。

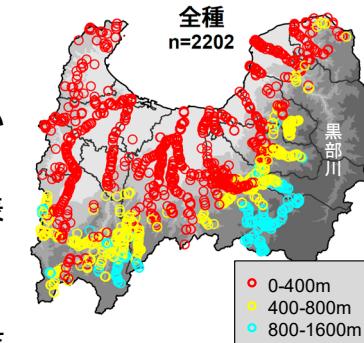
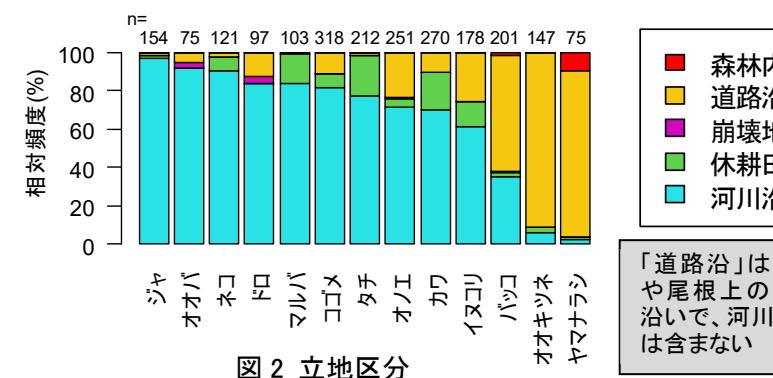


図1 ヤナギ類の分布地点
車でアクセスできない黒部川中上流域は調査対象外



「道路沿」は山腹や尾根上の道路沿いで、河川沿いは含まない

1-3 標高分布と湿潤指数分布

標高分布をみると、ジャヤナギ、タチヤナギ、マルバヤナギは中央値が40m以下で低標高に偏って分布しました(図3左)。カワヤナギとネコヤナギも中央値は100m以下で比較的低標高に偏って分布しました。ドロノキ、ヤマナラシ、オオバヤナギ、オノエヤナギ、バッコヤナギは中央値が約500m以上で高標高に偏って分布しました。

湿潤指数の中央値が高い5種は、標高の中央値が低い5種と共に通で、ジャヤナギ、タチヤナギ、マルバヤナギ、ネコヤナギ、カワヤナギでした(図3右)。これらは低標高の水湿地に多い樹種と言えます。湿潤指数の中央値が低い3種はバッコヤナギ、オオキツネヤナギ、ヤマナラシで、主に道路沿いに生育する種(図2)でした。これらは山腹や尾根上のような乾燥した環境に多い樹種と言えます。

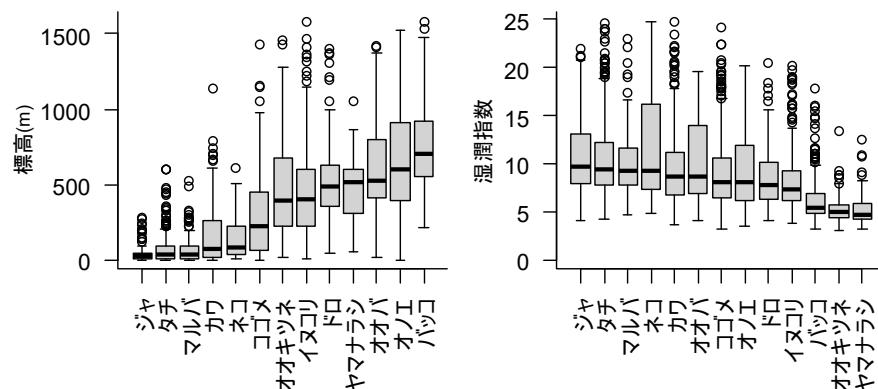


図3 標高分布(左)と湿潤指数分布(右)

中央値順に表示。湿潤指数は集水面積が大きく、傾斜が緩いほど大きくなる値。

1-4 標高と湿潤指数の2要因で表した分布特性

高木樹種と小高木・低木樹種に分けて、標高と湿潤指数の2要因で分布特性を表しました(図4)。高木樹種8種についてみると、河川沿いの湿潤な環境には低標高から順にジャヤナギ、マルバヤナギ、コゴメヤナギ、ドロノキ、オオバヤナギ、オノエヤナギが、山腹斜面や尾根上などの乾燥した環境にはヤマナラシとバッコヤナギが分布していました。小高木・低木樹種5種についてみると、湿潤な環境には低標高から順にタチヤナギ、カワヤナギ、ネコヤナギ、イヌコリヤナギが、乾燥した環境にはオオキツネヤナギが分布していました。

ヤナギ類を緑化植物やバイオマス資源として利用する場合には、事業地の立地が当該樹種の分布特性に見合ったものであるか確認すると良いでしょう。

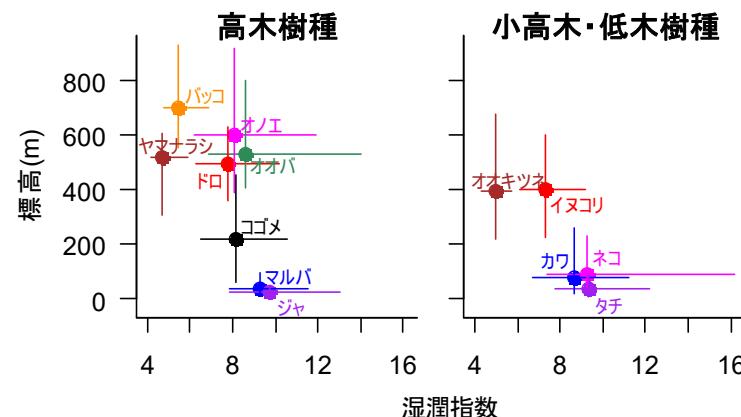


図4 標高と湿潤指数の2軸で表した分布特性

●は中央値、バーは四分位範囲

1-5 河川による分布の違い

標高と湿润指数でおおむね分布特性を表すことができましたが、平野部の大河川下流部では、河川による分布の違いもありました(図 5)。高木樹種のジャヤナギ、マルバヤナギ、コゴメヤナギは下流部に多い樹種ですが、ジャヤナギは県西部～中央部の小矢部川、庄川、神通川に、マルバヤナギは県中央部の庄川と神通川に、コゴメヤナギは県東部の常願寺川、早月川、黒部川に主に分布しました。また、オオバヤナギは県東部の早月川のみ下流部の河口付近まで分布しました。県東部の河川は、北アルプスから流れる急流河川であり、下流部でも礫質の河原が多いのに対し、県中央部から西部の河川は比較的緩勾配で川岸の土壤は砂質や粘土質が多いことが、河川による分布の違いが生じる一因だと考えられます。

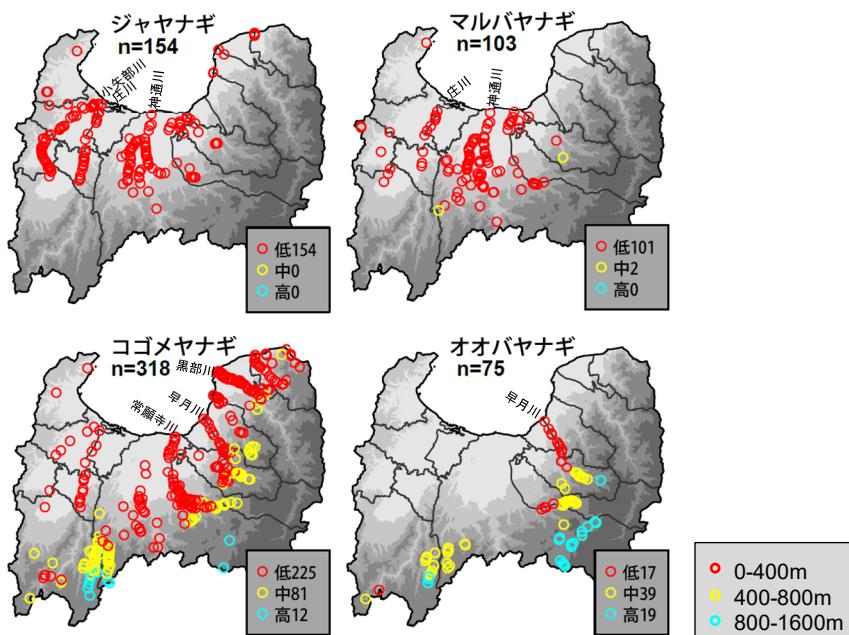


図 5 ジャヤナギ、マルバヤナギ、コゴメヤナギ、オオバヤナギの分布地点

2. ヤナギ類の見分け方

2-1 葉

ヤナギ類のうち、どの樹種であるか見分けるには、春から秋の着葉期ならいつでも観察できる葉の特徴を知るのが基本です。ヤマナラシ属の2種は形状などから容易に見分けられます。ヤナギ属については、まず細長い葉(3種)と幅のある葉(8種)のいずれかを判別したうえで、葉のサイズで当たりを付けます(表2、p11～12の葉一覧)。次に、葉序(互生or対生)、形状(最大幅となる位置や先端の尖り方)、葉裏の毛、質感(革質 or 洋紙質)、葉脈(走り方や凹み具合)などを確認します。新葉の縁が裏へ巻くか否か、新葉の色と変色部位、托葉の形状や腺も重要な情報です。新葉や托葉は時期によっては観察できないこともありますが、ヤナギ類は初秋まで伸長し続けるので、新葉は比較的長い期間観察可能です。詳細はp13～38を参照してください。

表 2 主要種のうちヤナギ属 11 種の葉の特徴

形状 サイズ	細長い葉(線形)	幅のある葉(楕円形・卵形)
小型の葉 (最大約10cm)	コゴメヤナギ ① ・新葉巻き無	イヌコリヤナギ ④ ・対生・葉柄なし
中型の葉 (最大約15cm)	カワヤナギ ② ・最大幅先端寄り ・新葉巻き有 ・細長い托葉 オノエヤナギ ③ ・最大幅基部寄り ・新葉巻き有 ・葉脈凹みシワシワに見える	ネコヤナギ ⑤ ・湾曲する長い明瞭な側脈 ジャヤナギ ⑥ ・葉裏粉白色 タチヤナギ ⑦ ・托葉の腺 ・葉柄の腺 ・新葉中央暗赤色 マルバヤナギ ⑧ ・新葉全体明赤色 ・托葉大型 ・葉柄の葉状物 バッコヤナギ ⑨ ・葉裏の縮毛 ・新葉巻き有 ・革質
大型の葉 (最大約20cm)		オオキツネヤナギ ⑩ ・新葉巻き無 ・洋紙質 オオバヤナギ ⑪ ・葉裏粉白色 ・托葉大型 ・最大幅基部寄り

・種名末尾の丸数字は主要種解説ページ(p13～38)冒頭の種番号

2-2 開花時期と花序の形状

ヤナギ類は雌雄異株植物であり、雄花しか付けない雄株と、雌花しか付けない雌株があります。雄花、雌花とも多くの花が集合して尾状(円筒形)の雄花序、雌花序となります。

開花期は春ですが、花序の現れるタイミングは種により異なり、開葉前(写真1)、開葉と同時、開葉後(写真2)の3タイプがあります(表3)。また、花序は直立や斜立するタイプ(写真1)と垂れ下がるタイプ(写真2)があります。開花時期であれば、これらの特徴は樹種を見分ける手がかりとなります。また、雌花の子房の柄の長さや毛の有無は種の識別の決め手となることがあります。

表 3 主要種の開花時期と花序の形状

花序出現	高木樹種	小高木・低木樹種
開葉前	オノエヤナギ③ バッコヤナギ⑨ ヤマナラシ⑫ ドロノキ⑬	カワヤナギ② イヌコリヤナギ④ ネコヤナギ⑤ オオキツネヤナギ⑩
開葉と同時	コゴメヤナギ① ジャヤナギ⑥	タチヤナギ⑦
開葉後	マルバヤナギ⑧ オオバヤナギ⑪	

青字：花序は直立や斜立

赤字：花序はプララと垂れ下がる

種名末尾の丸数字は主要種解説ページ(p13~38)

冒頭の種番号



写真 1

オオキツネヤナギの雄花序
花序は開葉前に出現し、直立か
斜立。虫媒花のため訪花昆虫で
賑わう

2022.5.11 和田川峡谷(有峰)



写真 2

オオバヤナギの雄花序
花序は開葉後に出現し、垂
れ下がる

2025.4.24 常願寺川(本宮
駅付近)

2-3 果実の成熟時期

果実は成熟すると裂開し、綿毛に包まれた種子を飛ばします(写真3、4)。これを柳絮(りゅうじよ)と呼びます。成熟時期は種により異なり、主要種のうちオノエヤナギなど11種は開花から1ヶ月程度の春から初夏ですが(写真3)、オオバヤナギとドロノキの2種は夏以降の遅い時期です(写真4)。



写真 3 春のうちに裂開する

オノエヤナギの果実

2024.5.30 和田川西坂森谷(有峰)



写真 4 秋に裂開する

ドロノキの果実

2024.10.2 真川(立山駅付近)

2-4 個体サイズと立地

個体サイズは樹種識別の情報となります。小高木・低木樹種は樹高10m以上にはならないので、種名を知りたいヤナギ類が樹高10m以上であれば、候補を高木樹種に絞り込むことができます。

生育地の標高も参考になります。例えば、標高500m以上にはジャヤナギは分布せず、700m以上にはタチヤナギ、マルバヤナギ、ネコヤナギは分布しません(図3)。

2-5 雜種

ヤナギ属は種間雑種を作りやすく、種の同定を難しくする一因となっています。葉を観察していると、複数の種の特徴を兼ね備えていて、同定に迷う個体にしばしば遭遇します。例えば、写真5はバッコヤナギとオノエヤナギの雑種と疑われるヤナギです。ヤナギ属を見分ける際は、雑種が頻出することを念頭に置き、特定の種への同定には固執しない方が良いでしょう。

なお、雑種のできやすさには種による違いがあります。ヤナギ属の主要 11 種のうち、カワヤナギ、オノエヤナギ、イヌコリヤナギ、ネコヤナギ、バッコヤナギ、オオキツネヤナギの 6 種は雑種を作りやすい一方、タチヤナギとマルバヤナギの 2 種は雑種を作らないとされています(大橋 2016、吉山・茂木 2019)。



写真5 バッコヤナギとオノエヤナギの雑種バッコオノエヤナギと推定
バッコヤナギの特徴の葉裏の縮毛があるが(左)、先端の尖り方はオノエヤナギ(右)
2025.8.21 和田川有峰ダム付近

2-6 在来ヤナギ類主要種

各種の解説ページの内容、河川名、流域区分は以下のとおりです。



図 6 種ごとの解説ページの内容

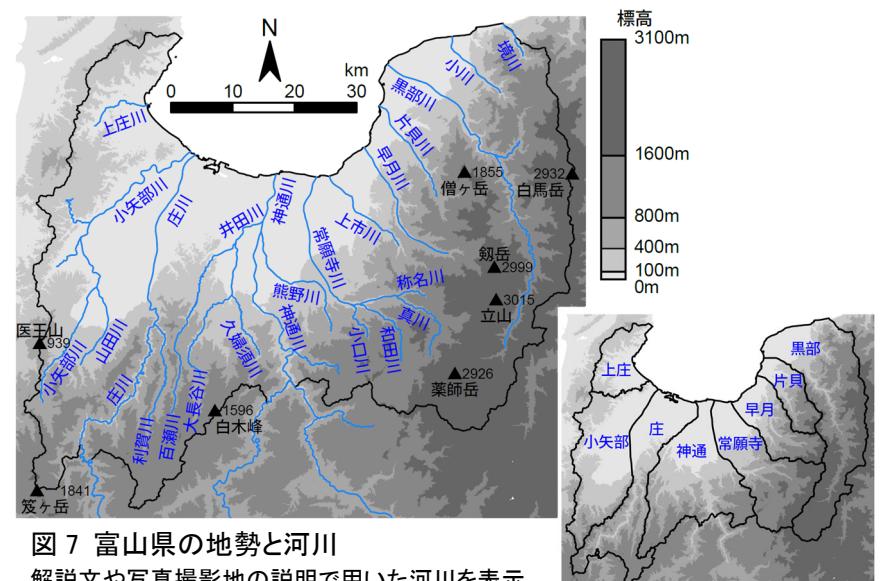


図7 富山県の地勢と河川
解説文や写真撮影地の説明で用いた河川を表示

葉の一覧 (葉表、×0.5) 種名末尾丸数字は解説ページ(p13~38)冒頭の種番号

●ヤナギ属【細長い葉(線形)】

コゴメヤナギ ①



カワヤナギ ②



オノエヤナギ ③



●ヤナギ属【幅のある葉(橢円形・卵形)】

イヌコリヤナギ ④



ネコヤナギ ⑤



ジャヤナギ ⑥



タチヤナギ ⑦



マルバヤナギ ⑧



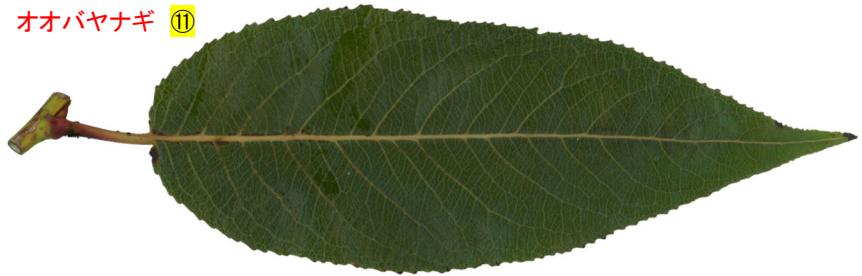
バッコヤナギ ⑨



オオキツネヤナギ ⑩



オオバヤナギ ⑪



●ヤマナラシ属

ヤマナラシ ⑫



ドロノキ ⑬



① コゴメヤナギ

Salix dolichostyla subsp. *serissifolia*

生活形: 落葉高木、最大樹高約 25m

主要生育地: 河川下流～中流部。平野部の大河川では常願寺川から東に多い。山間部では神通川水系の大長谷川と百瀬川に多い。

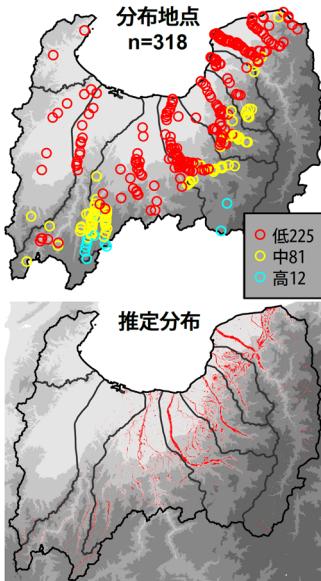
葉による見分け方: 葉のサイズは本書のヤナギ類でイヌコリヤナギと並び最小。カワヤナギ、オノエヤナギとともに葉の細長いヤナギ類。新葉の縁は裏に巻かない(カワヤナギとオノエヤナギは巻く)。



1本立ちか数本立ちとなる。黄色く目立つ開花期の雄株 2024.4.15 大長谷川(八尾町新屋)



大木となる。片貝川の有頬柳は胸高直径 93cm 2022.5.14 片貝川(8号バイパス上流)



平野部の大河川では黒部川に特に多い
2022.5.29 黒部川(8号バイパス下流)



花序は開葉と同時に現れる
左:雄花序 2023.4.14 片貝川(河口付近)、右:雌花序 2023.4.2 常願寺川(雷鳥大橋付近)



裂けた中の果実。開花後約1ヶ月で成熟
2022.5.10 真川(立山駅付近)



山間部の谷幅の広い河川にも群生する
2022.4.28 百瀬川(利賀村上百瀬)



冬芽
2024.11.26
常願寺川
(本宮駅付近)



樹皮は暗褐色。成木では縦に裂ける
上:常願寺川(本宮駅付近)、下:常願寺川(横江頭首工)



葉身長 4-11cm。細鋸歯。葉裏は粉白色
2024.8.27 常願寺川(横江頭首工)



新葉は時に赤みを帯びる。
新葉の縁は裏に巻かない
2022.5.18 常願寺川(雷鳥大橋付近)



托葉は羽根状

2022.5.18 常願寺川(雷鳥大橋付近)



葉が小さいため、白味強い部分(旧葉の葉裏と新葉)と緑色濃い部分(旧葉の葉表)が細かくモザイク状に見える
2021.8.24 大長谷川(茗ヶ島橋)



隣り合って生える葉の細長いヤナギ類 3種
2024.10.19 常願寺川(本宮駅付近)

② カワヤナギ

Salix miyabeana subsp. *gymnolepis*

生活形: 落葉小高木、最大樹高約 8m

主要生育地: 河川下流～中流部、休耕田

葉による見分け方: コゴメヤナギ、オノエヤナギとともに葉の細長いヤナギ類。葉形には変異が多い。新葉の縁は裏に巻く(コゴメヤナギは巻かない)。最大幅となる部分が先端寄りの葉が多い(オノエヤナギは基部寄り)。托葉は細長く、他種にない特徴。



株立ちとなる 左: 2022.5.13 小矢部川(国条橋付近)、右: 2022.5.9 高岡市福岡町赤丸の休耕田



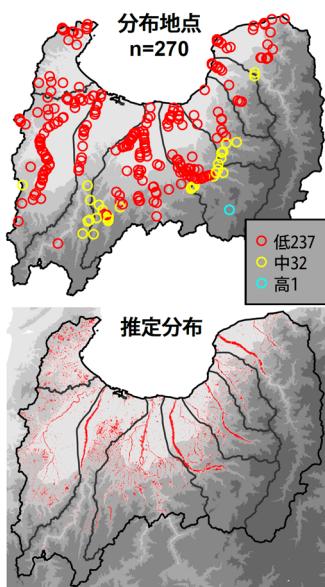
河川敷のカワヤナギが優占する群落
2022.5.14 常願寺川(雄峰大橋付近)



休耕田でタチヤナギとともによく見る
2022.5.19 高岡市福岡町柄丘の休耕田



裂開中の果実。開花後約1ヶ月で成熟
2022.5.10 真川(立山駅付近)



花序は開葉前に現れる
左: 雄花序 2025.3.25 常願寺川
(常願寺大橋付近)、右: 雌花序
2024.3.28 黒部川(河口付近)



互生 2024.8.27
冬芽
2024.11.26
富山市和田の
休耕田



新葉の縁は裏に巻く 2022.5.5
小矢部市嘉例谷の休耕田



枝先の新葉は白っぽく見える
2022.5.22 庄川(高岡大橋付近)



新葉の色の違いが明瞭な、
隣り合うカワヤナギとマルバ
ヤナギ 2022.6.18 熊野川
(富山市文珠寺)



樹皮は灰白色。
成木では縦に
浅く裂ける
上: 熊野川(富
山市八日町)、
下: 常願寺川
(本宮駅付近)



托葉は細長い
上: 2022.8.5
久婦須川(八
尾町桐谷)、
下: 2022.5.15
神通川(中島
大橋上流)



葉身長 7-16cm。先端が腺になる鋸歯。葉裏は白緑色。最大幅
となる部分は先端寄りの葉が
多い 2024.8.27 富山市和田の
休耕田

③ オノエヤナギ *Salix udensis*

生活形: 落葉高木、最大樹高約 15m

主要生育地: 河川中流～上流部、林道沿い

葉による見分け方: カワヤナギ、コゴメヤナギとともに葉の細長いヤナギ類。新葉の縁は裏に巻く(コゴメヤナギは巻かない)。最大幅となる部分が基部寄りの葉が多い(カワヤナギは先端寄り)。葉脈が葉裏に凹むため葉表はシワシワに見えるのも大きな特徴。



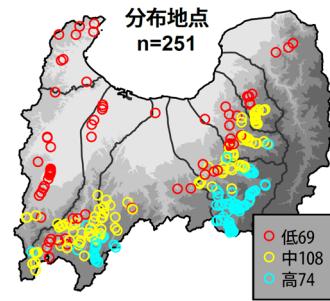
1本立ち(左)または数本立ち(右)。中標高以上では左のように林道沿いの攢乱跡地にも生育
左: 2023.6.3 立山町長倉、右: 2022.9.26 片貝川別又谷



堰堤天端
2024.4.18 利賀川悪瀬谷
堰堤堆砂敷の群生
河川内の群生 2022.6.2
真川(有峰折立)



平野部の大河川にも所々
生育 2023.5.27 小矢部川
(小矢部市茄子島)
亞高山まで生育
2023.7.26 立山天狗平



花序は開葉前に現れる 左: 雄
花序 2022.5.20 南砺市桂湖開
津谷、右: 雌花序 2022.5.11 和
田川西坂森谷(有峰)



裂開中の果実。開花後約 1ヶ月
で成熟
2021.6.8 立山カルデラ泥谷



葉脈は葉裏に凹み葉表は
シワシワに見える 2025.8.21
和田川有峰ダム付近



枝先の新葉は白っぽく
見える 2022.6.5 上市川
(上市町市街付近)



黄葉する 2022.11.18
片貝川南又発電所



若木の樹皮は褐色で菱形の皮目
がある 真川(立
山駅付近)

成木の樹皮は暗褐色で浅く縦に
裂ける 常願寺
川(本宮駅付近)

表
×1.0
裏
×1.0



葉身長 10-16cm。鋸歯は波状か
全縁。葉裏は淡緑色。最大幅とな
る部分は基部よりの葉が多い
2024.8.27 称名川(称名滝付近)

④ イヌコリヤナギ *Salix integra*

生活形: 落葉低~小高木、最大樹高約 6m

主要生育地: 林道沿い、河川、休耕田

葉による見分け方: 県内自生ヤナギ類で唯一対生するため葉序で見分けられる。ただし、互生部分も混じることが多い。葉は小型の橢円形で、類似種はなく、これも特徴。



株立ちとなる。休耕田の大きな個体
2022.5.19 高岡市福岡町柄丘



道路沿の攪乱跡地の群生
2022.6.21 百瀬川菅沼ダム付近



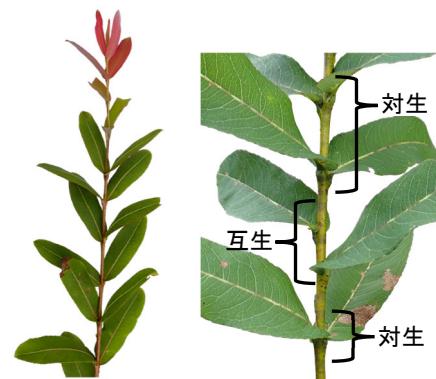
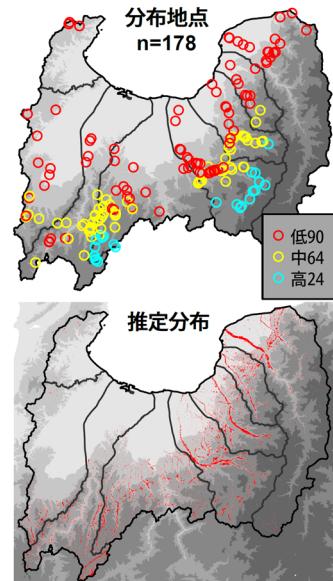
県東部では河川下流
にも随所に生育
2022.5.15 常願寺川
(常盤橋付近)



亜高山にも生育
2023.7.11 立山弘法



裂開中の果実。開花後約 1ヶ月
で成熟 2022.6.17 百瀬川東俣谷



対生が基本だが互生の部分も混じる
左: 2024.8.27 富山市才覚地の休耕田、
右: 2025.8.16 南砺市梨谷



葉序に応じ花序も対生が基本。
対生する雄花序
2025.3.25 富山市西番の休耕田



葉身長 4~8cm。低鋸歯。葉柄はほとんどない。托葉はない。葉の色が薄い
2024.8.27 富山市才覚地の休耕田



冬芽
2024.11.25 真川
(立山駅付近)



樹皮は灰白色で平滑
常願寺川(本宮駅付近)



新葉は薄紅色。新葉の縁は裏に巻かない
左: 2022.5.26 井田川(八尾町福島)、
右: 2022.5.15 常願寺川(常盤橋付近)



花のよう見える虫えい
2025.3.25 黒部川(黒部
大橋付近)

⑤ ネコヤナギ

Salix gracilistyla var. *gracilistyla*

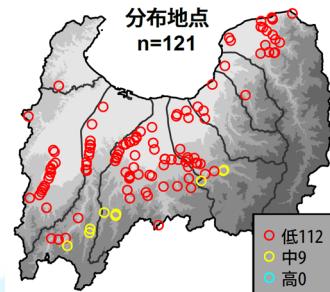
生活形: 落葉低木、最大樹高約 3m

主要生育地: 河川下流～中流部

葉による見分け方: 楕円形の葉で、明瞭な側脈が湾曲して葉縁に沿い長く伸びる。



株立ちとなり上方には伸びず横に拡がる。大河川水際の群生 2022.6.12 庄川(となみ野大橋付近)



堰堤放水路の株立ち
2023.12.6 入善町舟見



花序は開葉前に現れる 左:雄花序、右:雌花序 2025.3.25 小口川(富山市才覚地)



河川水流沿いの群生
2022.6.28 小口川(富山市才覚地・中地山)



「春一番」の歌詞のとおり、雪をはねて顔を出した。すぐ開花 2025.3.25 小口川(富山市才覚地)



裂開中の果実。開花後約1ヶ月で成熟 2022.5.20 南砺市田向の休耕田



互生 2024.8.28
立山町吉峰



湾曲する長い明瞭な側脈が特徴 左:2022.5.26 井田川(八尾町福島)、右:2022.7.26 常願寺川(本宮駅付近)



新葉は時に赤みを帯びる。新葉の縁は裏に巻かない 2023.5.27
小矢部川(南砺市上川崎)



葉色は青味がかかることが多い。白っぽい新葉も混じる、ネコヤナギ独特の色調 2022.6.16 山田川城端ダム湖岸



冬芽
2024.11.26
熊野川(富山市八日町)
樹皮は褐色
常願寺川(本宮駅付近)

表
×1.0
裏
×1.0



葉身長 6-13cm。細鋸歯。葉裏は淡緑色。最大幅となる部分は中央付近 2024.8.28 立山町吉峰



秋になると葉柄基部が赤く膨らみ冬芽を抱く 2025.11.24
常願寺川(本宮駅付近)

⑥ ジヤヤナギ *Salix eriocarpa*

生活形: 落葉高木、最大樹高約 12m

主要生育地: 河川下流部、湿地。大河川では神通川から西に多く、早月川から東には少ない。

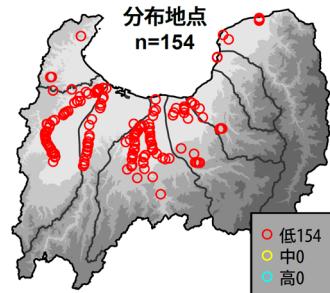
葉による見分け方: 葉のサイズや形はタチヤナギに似るが、ジヤヤナギの葉先は徐々に狭まって鋭く尖り、葉裏は粉白色。托葉は羽根状で先端が尖る。



1本立ちか数本立ちとなる。大河川の河川敷に多い 2022.6.12 庄川(北陸道庄川大橋付近)



幹はしばしば斜立し曲がりも多い
2022.5.13 小矢部川(国吉大橋付近)



雌花序。長さは約 15mm と短い。開葉と同時に現れる。国内には雌株しかなく、古く大陸から移入されたとの説がある。国内に雄株、雌株ともあるオオタチヤナギと同種の可能性も指摘されている(p39 参照) 2023.4.2
庄川(雄神大橋付近)



湿地に成立したジヤヤナギ林 2024.5.20
水見市桑院溜池



氾濫跡の裸地に侵入した若齢個体 2022.5.22
神通川井田川出合



休耕田でも見ることがある
2022.6.18 富山市西福沢



側枝は分枝部で折れやすく、軽く手で引くだけで容易に取れる。強風等で折れた枝による無性繁殖に有利な形質と考えられる 2022.6.4
常願寺川(雷鳥大橋付近)



冬芽
2024.11.26 熊野川(富山市八日町)

互生。当年枝基部の葉を除き、葉先は鋭く尖る
2024.9.22 立山町吉峰



新葉の中央部は時に明るい赤味を帯びる。新葉の縁は裏に巻かない 2022.6.7
熊野川(国道 41 号付近)



明るい新葉と暗い旧葉が混じる色調と、ツンツンした葉先が特徴
2023.5.27
小矢部川(小矢部市茄子島)



葉表は光沢がある濃緑色、葉裏は粉白色
2024.5.20 水見市桑院溜池



若木



成木



托葉は羽根状で
樹皮は褐色。成木では縦に裂ける 左:熊野川(富山市八日町)、右:立山町柄津(牧野大橋付近)
2022.5.22 庄川(牧野大橋付近)



⑦ タチヤナギ *Salix triandra*

生活形: 落葉小高木、最大樹高約 8m

主要生育地: 河川下流部、休耕田、湿地

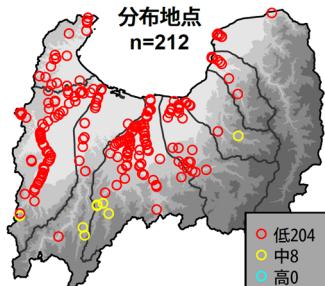
葉による見分け方: 葉のサイズや形はジャヤナギに似るが、タチヤナギの葉先は急に狭まって尖り、葉裏は白緑色。托葉に腺点が密に分布するのは、他種にない特徴。



株立ちとなる。開花期の雄
株は遠目にも黄色く見え
目立つ 2023.4.5 上市川
(国道 8 号付近)



河川敷の大きな株立ち
2022.5.13 小矢部川
(国東橋付近)



河川敷のタチヤナギが優占する低木林
2022.5.6 小矢部川(向田橋付近)



花序は開葉と同時に現れる
左: 雄花序 2022.4.12 氷見市谷屋の
休耕田、右: 雌花序 2023.4.2 庄川
(大門大橋付近)



休耕田でカワヤナギとともによく見る
2022.5.13 高岡市頭川の休耕田



雄花序の花糸は 3
本で本種特有
2022.4.17 常願寺川
(常願寺大橋付近)

裂開中の果実。開花
後約 1 ヶ月で成熟
2022.5.2 氷見市谷屋



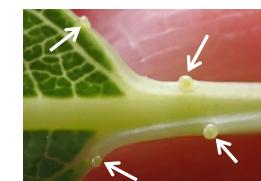
互生 2024.8.27 常願
寺川(横江頭首工)



新葉の中央部はしばしば暗い赤味を帶
びる。新葉の縁は裏に巻かない
2022.5.14 常願寺川(常願寺大橋付近)



新葉を展開しながら勢い良く伸長する
樹冠上部の着果枝 2022.5.4 氷見市
仏生寺の休耕田



葉柄や葉の基部に腺が付くことがある
2022.5.15 神通川(河口付近)



表
×1.0
裏
×1.0



樹皮は褐色。成木
では剥けて反り返る
上: 熊野川(富
山市八日町)、下:
常願寺川(横江頭
首工)

葉身長 6-15cm。先端が腺になる細鋸歯。
葉表は滑らかな触感。葉裏は淡白緑色。
葉先は急に狭まり尖る

2024.8.27 常願寺川(横江頭首工)



托葉はえりまき状や羽根状で、腺点が密
に分布。托葉は春一番の新葉、勢いのな
い枝、古い葉では見られない

左: 2022.6.18 熊野川ダム湖、
右: 2022.5.15 神通川(富山北大橋付近)

⑧ マルバヤナギ *Salix chaenomeloides*

別名: アカメヤナギ

生活形: 落葉高木、最大樹高約 20m

主要生育地: 河川下流部、湿地、休耕田。大河川では神通川と庄川に多く、早月川から東と小矢部川ではまれ。

葉による見分け方: アカメヤナギの別名の通り、新葉は全体が明るい赤色となる。種名のとおり丸みのある葉もあるが、葉形は変異が大きい。托葉は扇形で大きく、類似種はオオバヤナギのみ。葉柄に葉状物が付くことがある、他種にはない特徴。



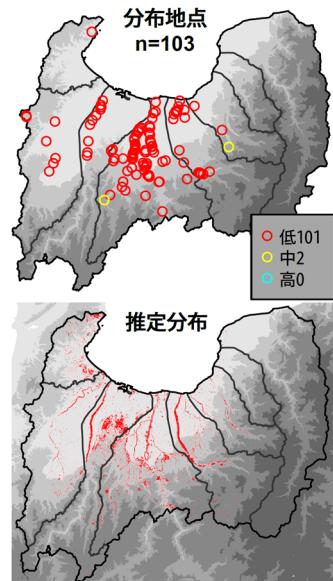
1本立ちか数本立ちとなる。成木の樹冠は幅広
左: 2025.4.24 井田川(北陸道井田川橋付近)、
右: 2025.11.24 小口川(富山市中地山)



河川敷の群生 2022.6.4 熊野川
(国道 41 号と中部広域農道の間)



休耕田の群生 2022.6.18
富山市才覚地の休耕田



花序は開葉後に現れる。開葉時期も他種より遅い 左: 雄花序 2025.4.24 井田川(北陸道井田川橋付近)、右: 雌花序 2022.4.18 神通川水辺プラザ



根元が水没する所で
も生育 2022.4.28
大長谷川(茗ヶ島橋)
裂開中の果実。開花後
約1ヶ月で成熟
2022.5.22 神通川
(富山大橋付近)



互生。葉形は変異が大きい。幼木の葉
は右側のように細く先端が尖る
2024.8.27 富山市才覚地の休耕田



冬芽
2024.11.26
熊野川(富山市八日町)



若木
成木
樹皮は暗褐色。縦に割れる 上: 熊
野川(富山市八日町)、下: 小口川
(富山市文珠寺)

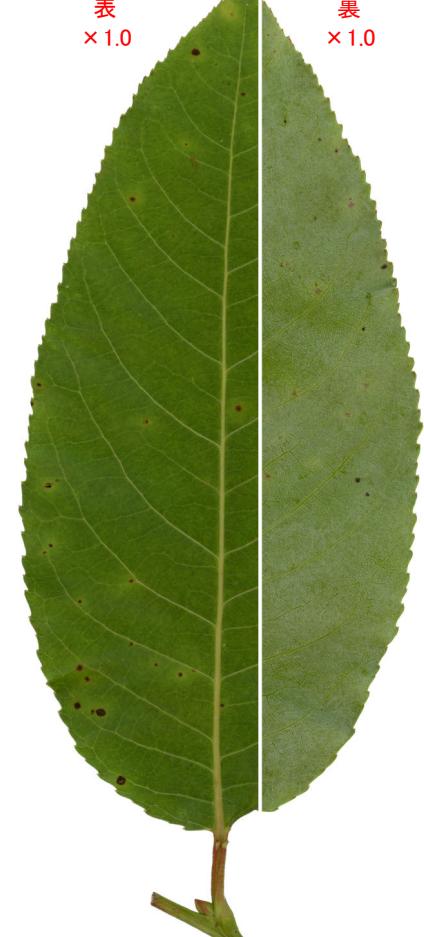


勢いの良い枝の托葉は秋まで
残る 2024.10.19 熊野川(国道
41号と中部広域農道の間)



托葉は扇形で大きい。葉柄に小さな葉状物が付く
ことがある 2021.8.28 常願寺川(富山市水橋)

表
×1.0
裏
×1.0



⑨ バッコヤナギ *Salix caprea*

別名: ヤマネコヤナギ

生活形: 落葉高木、最大樹高約 15m

主要生育地: 林道沿い、河川中流～上流部
葉による見分け方: オオキツネヤナギと形が似るが、新葉の縁は裏に巻き、葉裏に縮毛が密生する。また、オオキツネヤナギより葉表の色が濃く、革質で厚い傾向がある。葉裏の縮毛は大きな特徴だが、幼木や秋の葉では見られないこともある。

その他の見分け方: 葉以外のオオキツネヤナギとの違いは、雌花の子房に数ミリの明瞭な柄であること、高木になること。

備考: まな板材として知られる。



1本立ちまたは数本立ちとなる。林道沿いの尾根上(左)にも渓流沿い(右)にも生育

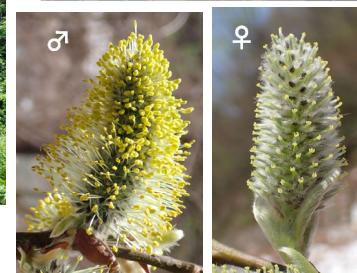
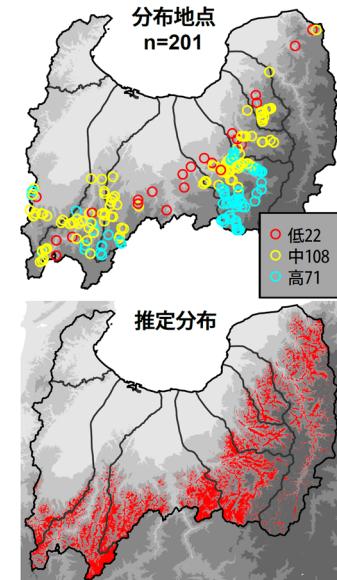
左: 2022.8.16 利賀村坂上(山の神峠付近)、右: 2022.6.17 百瀬川(利賀村上百瀬)



子房は数 mm の柄がある 2022.4.9
富山市瀬戸

残雪の雪原で開花する雄個体。開花が早く、この時期目立つ

2025.4.12 南砺市梨谷



花序は開葉前に現れる
左: 雄花序、右: 雌花序
2025.4.26 片貝川南又谷



裂開中の果実。開花後約 1ヶ月で成熟 2021.6.9 和田川有峰ダム付近



互生 2024.8.27
称名川(桂台上流)



新葉の縁は裏に巻く
2022.5.7 早月川(馬場島付近)



樹皮は褐色。成木では縦に裂ける
上: 南砺市細尾峠、
下: 常願寺川(本宮駅付近)



葉裏に白い縮毛が密生。
毛の生え方は個体差があり、幼木や秋の葉では見られないことがある 2021.8.23
和田川有峰ダム付近



托葉は扇形
や羽根状
2024.8.27 称名川
(桂台上流)



葉身長 8-15cm。
波状鋸歯。革質で葉脈は葉裏に凹む。葉表は濃緑色。葉裏は淡緑色

2024.8.27 称名川
(桂台上流)



葉表は濃緑色で革質となることが多い。葉脈は葉裏に凹み葉表はシワシワに見える 2025.8.16 南砺市閑乗寺



托葉は扇形
や羽根状
2022.6.20
庄川町湯谷

⑩ オオキツネヤナギ *Salix futura*

別名: オオネコヤナギ

生活形: 落葉低木、最大樹高約 5m

主要生育地: 林道沿い。特に切土法面

葉による見分け方: 葉のサイズは本書のヤナギ類でオオバヤナギと並び最大。バッコヤナギと形が似るが、新葉の縁は裏に巻かず、葉裏の縮毛はない。バッコヤナギより葉表の色は薄く、洋紙質で厚さが薄い傾向がある。

その他の見分け方: 葉以外のバッコヤナギとの違いは、雌花の子房がほぼ無柄であること、単幹の高木にはならず株立ちすること。



株立ちとなる。切土法面に生育する開花中の雌個体 2025.4.7
富山市文珠寺



しばしばタニウツギと混生 2023.5.22
朝日町境



花序は開葉前に現れる
左: 雄花序 2025.3.31 立山町吉峰、
右: 雌花序 2022.3.31 立山町吉峰



開花期の雄株は大きな花序がよく目立ち、存在に気付かされる
2022.5.11 和田川峡谷(有峰)



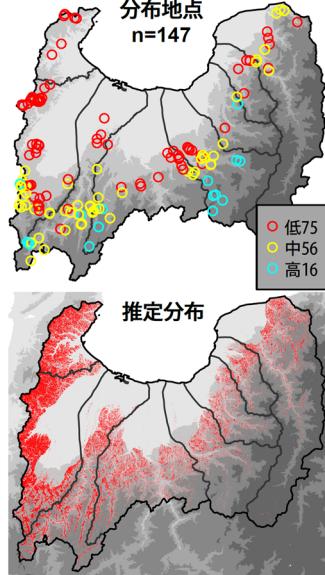
切土法面の群生 2022.5.17
南砺市才川七



子房はほぼ無柄
2022.5.9 高岡市
勝木原



裂開中の果実。開花後約1ヶ月で成熟 2022.5.5 小矢部市平桜



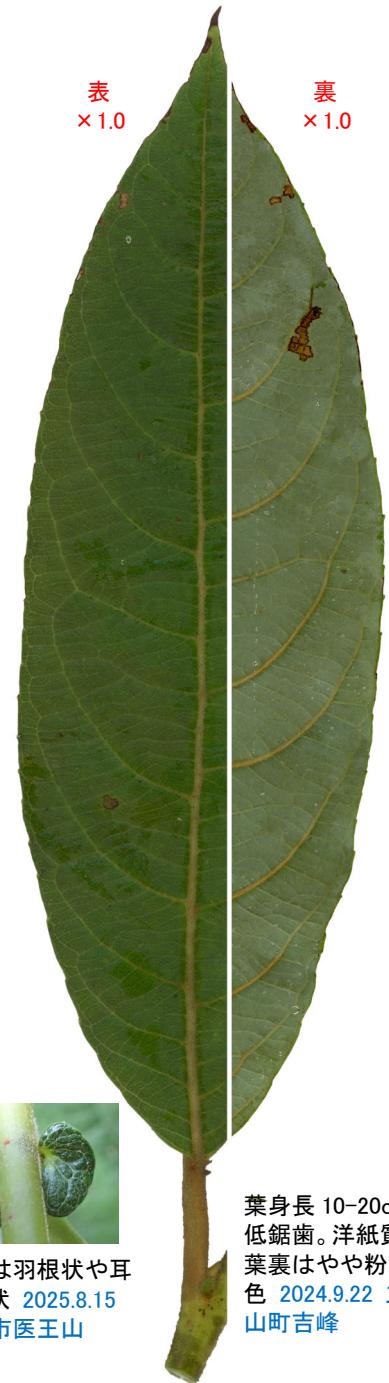
冬芽
2024.12.2
富山市文珠寺



表
×1.0



裏
×1.0



新葉は時に赤味を帯びる。新葉の縁は裏に巻かない 2025.8.15 南砺市医王山



初秋まで枝先に新葉が出現。
色の薄い新葉から濃い旧葉まで、色調にグラデーションがある大きな葉で構成される葉群が特徴 2025.8.15 南砺市医王山



托葉は羽根状や耳たぶ状 2025.8.15
南砺市医王山

葉身長 10–20cm。
低鋸歯。洋紙質。
葉裏はやや粉白色 2024.9.22 立山町吉峰

⑪ オオバヤナギ *Salix cardiophylla*

別名: トカチヤナギ

生活形: 落葉高木、最大樹高約 30m

主要生育地: 河川中流～上流部。早月川のみ下流部の河口近くまで分布。

葉による見分け方: 葉のサイズは本書のヤナギ類でオオキツネヤナギと並び最大。幅が最大となる部分は基部よりで、先端に向徐々に狭まる。葉裏は粉白色。托葉は扇形で大きく、類似種はマルバヤナギのみ。



1本立ちで大木になる
2025.4.21 大長谷川
(八尾町内名)



山間の谷幅の広い溪流で
見ることが多い 2022.6.2
真川(有峰折立)



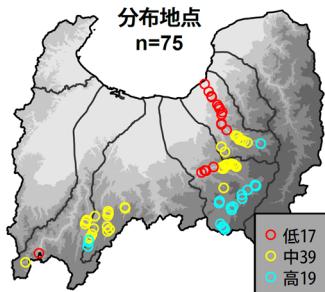
河川の攢乱跡地に侵入
2025.8.23 早月川(馬場島付近)



早月川では河口近くまで生育 2022.5.29
早月川(あいの風とやま鉄道鉄橋)



立山カルデラの高齢林
2005.11.13 立山カルデラ
多枝原谷



花序は開葉後に現れる 左:雄
花序 2025.4.24 常願寺川(本
宮駅付近)、右:雌花序
2025.4.24 真川(立山駅付近)



果実。右は裂開中。成熟は初秋
でヤナギ類では遅い 2025.8.23
早月川(馬場島付近)



冬芽
2024.11.25
真川
(立山駅付近)

互生 2024.8.27

常願寺川(本宮駅付近)



樹皮は暗褐色。成木では縦に
裂ける 真川(立山駅付近)



新葉は時に赤味を帶
びる。新葉の縁は裏
に巻かない。葉裏は
粉白色 2022.5.29
早月川(河口近く)



紅葉しない。
落葉は遅い
2024.11.5
和田川西坂
森谷(有峰)



托葉は扇形で大きく、遅くまで残る
左:2022.5.29 早月川(北陸新幹線鉄橋付近)、
右:2025.8.23 早月川(鉄橋付近)

葉身長 10–20cm。
細鋸歯。葉裏は粉
白色。最大幅とな
る部分は基部より
で、先端に向
徐々に狭まる
2024.8.27 常願寺
川(本宮駅付近)

⑫ ヤマナラシ

Populus tremula var. *sieboldii*

生活形: 落葉高木、最大樹高約 20m

主要生育地: 林道沿い

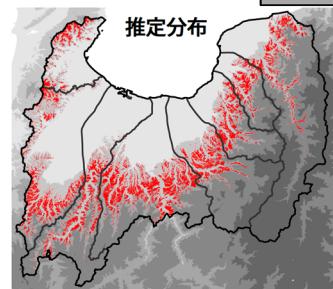
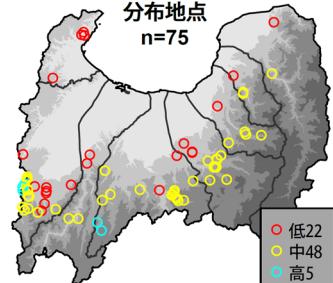
葉による見分け方: 丸みのある三角形から菱形で葉身基部に腺がある。葉柄は扁平なため風で揺れやすくパタパタと音をたてる。



1本立ちか数本立ちとなる。山頂広場林縁の個体 2024.4.10
宇奈月温泉小原山



林道沿いで見ることが多い 2024.5.26 南砺市刀利(林道城福線)



花序は開葉前に現れる。開花から開葉までのタイムラグが大きい
左: 雄花序 2025.3.25 立山町吉峰、右: 雌花序 2025.3.25 立山町岩峠寺



裂開中の果実。開花後約1ヶ月で成熟 2025.5.13 白樺平(本宮駅南方)



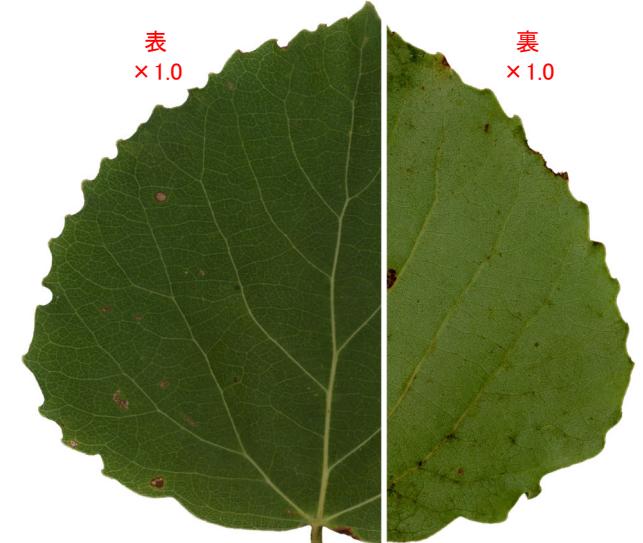
県道沿いの個体。バックは残雪の僧ヶ岳
2025.4.26 魚津市島尻



二次林内でもたまに見かける 2024.6.20
庄川町庄コナラ林更新伐跡地



互生 2024.8.28
立山町吉峰



冬芽 2025.4.5
魚津市島尻



若木の樹皮は灰白色で菱形の皮目がある
立山町芦峠寺



成木の樹皮は褐色で縦に割れる
立山町吉峰



新葉 2025.4.29
白樺平(本宮駅南方)



根萌芽しやすい 2023.7.29
南砺市東西原



葉身基部に腺がある
2025.5.13 白樺平
(本宮駅南方)



葉柄は扁平
2025.11.27
立山町吉峰

⑬ ドロノキ *Populus suaveolens*

別名: ドロヤナギ

生活形: 落葉高木、最大樹高約 30m

主要生育地: 河川中流～上流部。常願寺川水系と早月川水系に多い。

葉による見分け方: 幅広の橢円形で基部は浅く凹む。革質。葉裏は緑白色で網目明瞭。

備考: マツチの軸木材に利用された。



1本立ちで主幹は直立する
2025.4.26 片貝川
南又谷



称名滝への県道沿いの大木
(胸高直径 83cm、樹高 29m)
2024.8.27 称名川七姫平



ドロノキが優占する河畔林
2022.6.18 常願寺川(立山
大橋より下流方向)



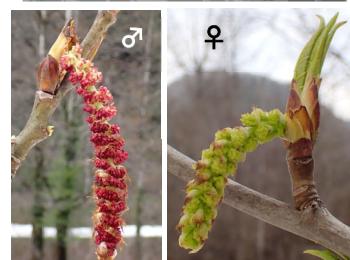
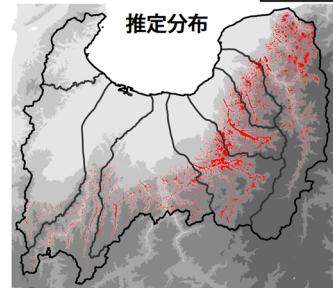
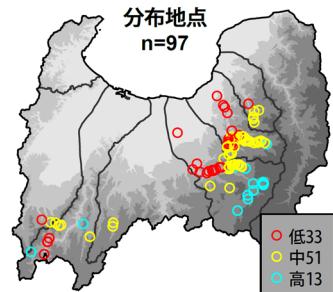
河川の攪乱跡地に侵入
2025.8.23 早月川(馬場島付近)



新緑のドロノキ林
2025.4.24
真川(立山駅付近)



裂開中の果実。成熟は秋で
ヤナギ類では最遅
2024.10.2
真川(立山駅付近)



花序は開葉前に現れる
左:雄花序、右:雌花序
2025.4.11 常願寺川(本宮駅付近)



裂開中の果実を樹冠
全体に付け白く見える
雌個体
2024.10.2 常
願寺川(本宮駅付近)



互生 2024.8.27 常願寺川
(富山市小見)



節間が詰まり短枝化した側枝 2024.8.27
常願寺川(富山市小見)



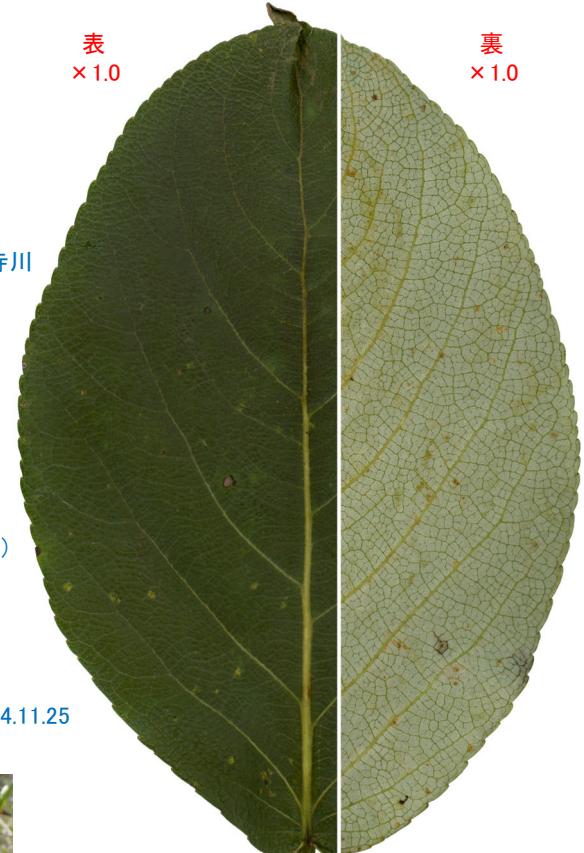
冬芽は大型で尖る 2024.11.25
真川(立山駅付近)



展葉 2025.4.30 早月川
(馬場島付近)



若木の樹皮は灰白色で菱形の皮目がある 常願寺川
(本宮駅付近)
成木の樹皮は褐色で縦に割れる 常願寺川
(本宮駅付近)



葉身長 6-14cm。細かく鋸歯。
葉裏は緑白色で網目が明瞭
2024.8.27 常願寺川
(富山市小見)



葉の表裏の色の違い 2025.8.23
早月川(馬場島付近)

2-7 その他の在来ヤナギ類

【稀少種】

⑯ オオタチヤナギ *Salix pierotii*

生活形：落葉高木、最大樹高約 12m

生育地：河川下流部、湿地。小矢部川流域にて生育確認。

葉による見分け方：葉はジャヤナギに酷似

備考：ジャヤナギと同種の可能性がある（大橋 2016）。国内には雌株しかないジャヤナギと異なり、オオタチヤナギは雄株、雌株ともあるとされる。葉はジャヤナギとオオタチヤナギに明瞭な違いはないため、葉の特徴に基づき暫定的にジャヤナギと同定した 128 個体を開花期に確認したところ、3 個体は非着花、122 個体は雌であったが、残りの 3 個体は雄で、葯の色はオオタチヤナギの特徴である赤であった。これら雄 3 個体はオオタチヤナギと考えられる。雌個体のジャヤナギとオオタチヤナギの識別ポイントは雌花の腺体数だが（大橋 2016）、ジャヤナギは 2 個、オオタチヤナギは 2 個まれに 1 個とされ、明確に峻別できないため同定困難だった。このため、葉の特徴からジャヤナギと同定した個体は、オオタチヤナギとした雄 3 個体を除き、ジャヤナギとして扱った。



1本立ちか数本立ち 2023.4.3
小矢部川(守山橋上流)



雄花序。葯は赤い 2023.4.3
小矢部川(国東橋上流)



互生 2024.9.20
小矢部川(国東橋上流)



葉裏は粉白色 2024.9.20
小矢部川(聖人橋付近)

【亞高山・高山生育種】

⑰ ミヤマヤナギ *Salix reinii*

別名：ミネヤナギ

生活形：落葉低木、最大樹高約 2m

生育地：亞高山～高山。立山では弥陀ヶ原から上部。

葉による見分け方：ヤナギ属の中では葉身長に対して幅が広い葉。葉形の変異は大きいが、卵形が基本。鋸歯は明瞭。葉身長 4～10cm。



株立ちとなる。開花期の雄個体
は黄色く目立つ
2023.6.8 立山天狗の鼻



花序は開葉と同時に現れる
左：雄花序 2023.6.8 立山天狗の鼻、
右：雌花序 2025.6.27 立山弥陀ヶ原



亞高山帯に広く生育。
開葉・開花中の個体
2023.6.8 立山カルデラ
展望台



ヤナギ属の中では
葉の幅が広い
2022.7.15 立山追分



新葉は時に赤味を帯びる。
新葉の縁は裏に巻かない
2023.7.24 立山室堂

2-8 外来ヤナギ類

【外来種】シダレヤナギ *Salix babylonica* var. *babylonica*

生活形: 落葉高木、最大樹高約 20m

生育地: 中国原産。街路樹や公園樹とされるが、河川下流部等で野生化

葉による見分け方: 葉身長は 8-13cm で細長い。

備考: 枝先が垂れ下がることで見分けられる。



1本立ちとなる。野生化
個体 2022.6.12 庄川
(中田橋上流)



野生化個体 2022.6.4
神通川(新保大橋付近)



シダレヤナギの品種ロッカク
ヤナギ。枝が長く垂れる
2022.10.10 中央植物園

【外来種】キヌヤナギ *Salix schwerinii* 'Kinuyanagi'

生活形: 落葉小高木、最大樹高約 6m

生育地: 朝鮮半島原産。河川下流部でまれに野生化

葉による見分け方: 葉身長は 8-18cm で細長くオノエヤナギに似るが、葉裏に絹毛が密生し光沢がある。

備考: 北海道や大陸に分布するエゾノキヌヤナギの栽培品種とされる。



株立ちとなる
2023.5.27 小矢部川
(南砺市上川崎)



葉形はオノエヤナギに似る
2022.6.3 小矢部川(高岡市
伏木)



葉裏は絹毛が密生
2023.5.27 小矢部川
(南砺市上川崎)

【外来種】ウンリュウヤナギ *Salix babylonica* 'Tortuosa'

生活形: 落葉高木、最大樹高約 20m

生育地: 中国原産。公園樹や庭園樹とされる
が、河川下流部等で野生化

葉による見分け方: 葉身長は 5-10cm で細長
く、大きく波打つ。

備考: シダレヤナギの栽培品種。枝は曲がり
くねる。



1本立ちとなる。野生化個体
2022.5.14 常願寺川(新幹線
橋梁付近)



枝も葉も曲がりくねる 2023.5.27 小矢部川
(小矢部市鴨島)



野生化個体 2023.5.27
小矢部川(小矢部市鴨島)

【外来種】セイヨウハコヤナギ *Populus nigra* var. *italica*

別名: ポプラ、イタリアヤマナラシ

生活形: 落葉高木、最大樹高約 30m

生育地: 公園樹や街路樹とされる。野生化
した個体は見ない。

備考: 細長い特異な樹形で見分けられる。



葉はヤマナラシに
似る。葉柄は扁平
2021.8.24 21世紀
の森駐車場(八尾
町杉ヶ平)



極端に細長い樹冠となる
左:2023.8.19 21世紀の森駐車場
(八尾町杉ヶ平)、右:2024.10.21
国道 160 号線(氷見市阿尾)

2-9 ヤナギ類の観察適地

富山県には多くの大河川があり、河口から山地までの距離も短いので、いずれの大河川でも比較的短い移動距離で、下流域に分布する種から中・上流域に分布する種まで多くのヤナギ類を観察できます。中でも常願寺川は、下流域で常願寺大橋から常盤橋にかけての河川敷(写真 6)を、中流域で富山地方鉄道本宮駅周辺の河川敷(写真 7)と尾根上の台地(白樺平、写真 8)を訪れれば、主要 13 種を網羅することができます。さらに、アルペンルートで立山の弥陀ヶ原まで登れば、ミヤマヤナギも見られます(P40)。



写真 6
常願寺川下流のヤナギ群落
この周辺には、コゴメヤナギ、カワヤナギ、イヌコリヤナギ、ネコヤナギ、ジャヤナギ、タチヤナギ、マルバヤナギの 7 種が生育
2024.4.10 常願寺川(常願寺大橋付近)



写真 7 常願寺川中流のヤナギ群落
この地点には、コゴメヤナギ、カワヤナギ、オノエヤナギ、イヌコリヤナギ、ネコヤナギ、タチヤナギ、バッコヤナギ、オオバヤナギ、ドロノキの 9 種が生育し、識別を楽しめる
2022.6.18 常願寺川(本宮駅付近)



写真 8 常願寺川中流域の尾根上の台地
東屋背後はヤマナラシ。周辺の林道沿いにバッコヤナギとオオキツネヤナギも生育
2025.4.29 白樺平(本宮駅南方)

3. 挿し穂の発根性

3-1 挿し穂の発根性調査の重要性

挿し木とは、増殖させたい植物の枝、茎、葉などを挿し穂として土に挿して発根させる繁殖法です。ここでは、ヤナギ類の立木から切り出した 20~25cm ほどの枝のことを挿し穂と呼びます。多くのヤナギ類は挿し穂から発根しやすく、他の植物が生育しづらい厳しい環境への適応力も高いと言われています。このため、挿し穂の直挿しによるヤナギ類の造林は、治山事業地の裸地緑化に有効な手法として知られています。また、ヤナギ類は初期成長が速いことから、エネルギー利用目的としたバイオマス資源作物としても注目されており、農耕地に導入する際には直挿しが行われます。

富山県に自生するヤナギ類の在来種は表 1 のとおりです。今後、緑化植物やバイオマス資源としてこれらのヤナギ類を活用するためには、各樹種における挿し穂の発根性(発根しやすいかどうか)を知る必要があります。そこで、主要 13 種の挿し穂を夏季(7 月下旬)および秋季(11 月下旬~12 月上旬)に採取し、それぞれの季節において同一の環境下で管理して発根性を調べました。

3-2 発根性の調べ方

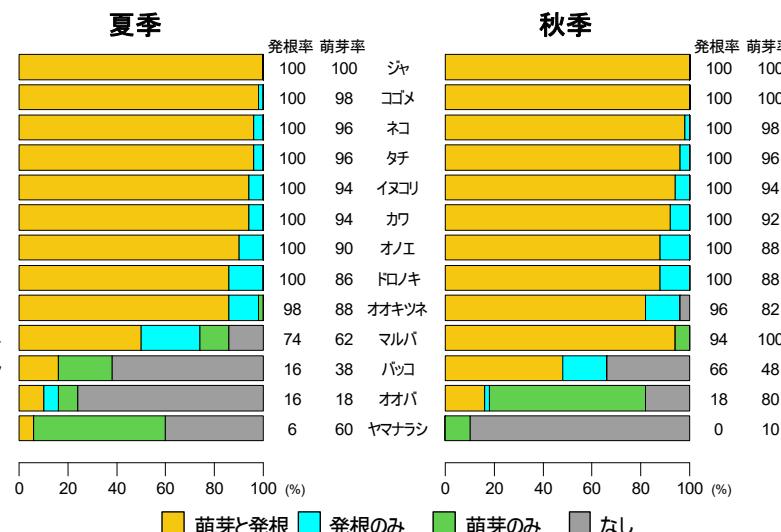
1 樹種につき自生木 10 個体の 2~3 年生の枝から長さ 20cm の挿し穂を 5 本ずつ採取し、バーミキュライトのみを入れたプランターに地上部がおよそ 5cm となるように挿しました。ヤナギ類は陽樹であり明るい場所を好みますが、冬季は挿し穂の乾燥を防ぐため、プランターを日陰に設置しました。雪解け後、開葉が始まると同時に夏季は日あたりの良い場所に設置し、1 日 2 回(早朝と夕方)灌水を行いました(写真 9)。約 1 週間おきに萌芽の有無や成長を観察し、新たな萌芽の発生がなくなった樹種から挿し穂を掘り出して根の有無を確認しました(p47~48)。



写真 9 発根性調査の様子

3-3 樹種による発根性の違い

各樹種における発根率と萌芽率は図 9 のとおりでした。萌芽がなく地上部の変化はなくとも、発根している場合(オオキツネヤナギ、バッコヤナギなど)がある一方、萌芽しても発根していない場合(オオバヤナギ、ヤマナラシなど)もありました。



2季にわたる調査結果から、発根率の季節変動を整理し、主要種を3タイプに分類しました(表4)。1つめは、夏季・秋季のいずれにおいても発根率が90%以上と高い樹種(ジャヤナギ、ネコヤナギなど9種)です。これらは、1年のうち発根しやすい期間が長いことが期待され、直挿しに適した樹種と言えます。2つめは、季節に関わらず発根率が20%未満と低い樹種(オオバヤナギとヤマナラシ)で、直挿しには適さない樹種と考えられます。3つめは、季節によって発根率に差がある樹種(バッコヤナギとオオキツネヤナギ)です。バッコヤナギの秋季の発根率は約70%でしたが、夏季は20%未満でした。また、オオキツネヤナギの発根率は、秋季では約90%と高かったものの、夏季では約70%でした。これら2種の発根は安定しないため、直挿しを行う場合は挿し穂の採取時期に注意する必要があります。

表4 発根率による主要種の分類

発根率	高木樹種	小高木・低木樹種
高	ジャヤナギ マルバヤナギ コゴメヤナギ オノエヤナギ ドロノキ	ネコヤナギ イヌコリヤナギ カワヤナギ タチヤナギ
中	バッコヤナギ	オオキツネヤナギ
低	オオバヤナギ ヤマナラシ	

高: 発根率は季節に関わらず90%以上

中: 高と低以外

低: 発根率は季節に関わらず20%未満

3-4 発根性調査のまとめ

県内に自生する主要なヤナギ類のうち、発根しやすい樹種を明らかにすることができます(表4)。今後、ヤナギ類の直挿しを行う際は、発根しやすい樹種の中から目的に応じて高木性と小高木・低木性のどちらが良いか検討し、造林地の標高と湿潤度が自然分布の範囲内(図3)であるかも考慮したうえで、使用樹種を決定すると良いでしょう。

(参考) 萌芽・発根の様子

【 発根率高 】



ジャヤナギ



マルバヤナギ



コゴメヤナギ

【 発根率中 】



バックヤナギ



オオキツネヤナギ



オノエヤナギ



ドロノキ



ネコヤナギ

【 発根率低 】



オオバヤナギ



ヤマナラシ



イヌコリヤナギ



カワヤナギ



タチヤナギ

おわりに

富山県には標高や乾湿に応じ、高木から低木まで様々なヤナギ類が生育していますので、その分布特性や発根性を考慮した上で、ヤナギ類の特性を活かした利用を検討いただければと思います。

森林研究所では、治山事業地においてヤナギ類による木本緑化試験を実施中です(写真 10)。また、耕作放棄地において、バイオマス発電所向けの燃材として利用するためのヤナギ類栽培試験を実施中です(写真 11、12)。今後、これらの結果も公表していきます。



写真 10 治山事業地におけるヤナギによる木本緑化試験状況
木製堰堤の掘削法面に4月に直挿したイヌコリヤナギの8月の生育状況(白点線)
2024.8.5 利賀村大豆谷



写真 11
耕作放棄地での栽培試験状況
早春に直挿したカワヤナギの翌春
の状況 2024.4.20 婦中町蓬原



写真 12
栽培したヤナギの収穫試験状況
直挿から2成長期後のカワヤナギ
2024.10.8 婦中町平等

参考文献

林将之 (2020) 樹木の葉 実物スキャンで見分ける 1300 種類. 山と溪谷社
(山渓ハンディ図鑑 14 増補改訂)

[葉の特徴をスキャン画像でわかりやすく解説](#)

茂木透ほか (2000) 樹に咲く花 離弁花 1. 山と溪谷社(山渓ハンディ図鑑 3)
樹形、葉、花の鮮明な写真が豊富

大橋広好 (2016) ヤナギ科. 改訂新版 日本の野生植物 3:184–208. 平凡社
分類の基礎情報。検索表は花によるものに加え葉によるものも掲載

大田弘・小路登一・長井真隆 (1983) 富山県植物誌. 廣文堂
[富山県に分布するヤナギ類についての基礎情報](#)

斎藤新一郎 (2001) ヤナギ類その見分け方と使い方. (社)北海道治山協会
[北海道のヤナギ類について緑化工事への使用方法含め解説](#)

富山県植物誌改訂版編集委員会 (2021) 富山県植物誌改訂版編集のため
の維管束植物チェックリスト

[富山県に分布するヤナギ類についての最新情報](#)

吉山寛・茂木透 (2019) ヤナギハンドブック. 文一総合出版
[豊富な写真で特徴や見分け方をわかりやすく解説。雑種の情報も充実](#)

ヤナギ類識別チャレンジ 答え

1段目左から

ネコヤナギ、コゴメヤナギ、バッコヤナギ

2段目左から

マルバヤナギ、カワヤナギ、ヤマナラシ

3段目左から

タチヤナギ、オオキツネヤナギ、オオバヤナギ、オノエヤナギ

4段目左から

イヌコリヤナギ、ドロノキ、ジャヤナギ

※すべて発根性調査における萌芽の写真を使用しました。

ヤナギ類識別チャレンジ 答えはこの裏にあります。



富山県農林水産総合技術センター 森林研究所

執筆者：中島 春樹（分布特性・見分け方）

岡山 侑子（発根性）

HPはこちら

〒930-1362 富山県中新川郡立山町吉峰3

電話：076-483-1511 FAX：076-483-1512

<https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/shinrin/>



この資料に関するご質問がありましたら、森林研究所までお問い合わせください。

2026年1月26日発行